

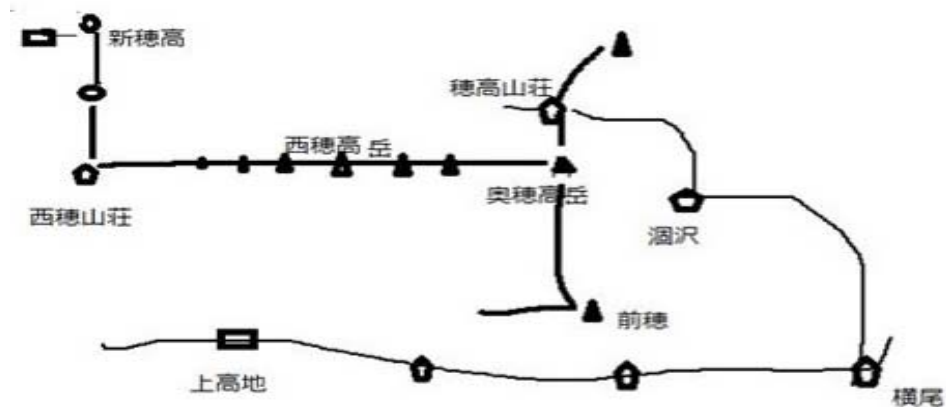
# 山行報告書

京都田辺山友会

報告者 中島 貞夫

山名	北アルプス 穂高縦走	山行名	個人山行・小屋泊
ルート	新穂高—西穂高山荘—西穂高岳—(縦走)—奥穂高岳—穂高岳山荘—上高地		
山行日	平成 25 年 8 月 10 日—12 日	天候	晴れ
参加者	リーダー： 中島貞夫 サブリーダー： 佐坂茂美 男性： 丸山敏文 女性： 徳田幸子、岡本綾子 合計： 5名		

## コース概略



## 山行報告

8月9日

19時 京田辺出発—23時 新穂高駐車場着 仮眠(テント)

駐車場を確保する為に前夜早く出発した。予想通りほぼ満杯で12日帰って来た時ははみ出した車が路上に多く停めていた。車の横にテントを張って仮眠した。

10日

7時発—7:25 しらかば平ロープウェイ乗り場—7:50 西穂高口—9:40 西穂高山荘——丸山往復 西穂高山荘泊

今日は時間がたっぷりあるのでゆっくりと準備してロープウェイの中間駅まで歩く。多くの観光客に混じって西穂高口へ上がるがガスで回りはほとんど見えない。観光の人は残念だろうが我々は明日があるので期待して山荘へスタートする。思った以上に早く山荘に到着する。山荘の前は大勢の登山者で混雑しており、受付時間までをくつろいだ。部屋にザックを置いて空荷で丸山までコースの下見に行く。ガスは流れているので、時折独標の南面が見えるが、明日に備えて引き返し山荘の食堂でダベリング。

登山者が多いのでフトン2枚に3人の詰め込み状態で寝る。

11日

3時発—3:20 丸山—4:15 独標 4:30—5:00 ピラミッド—6:00 西穂高岳 6:15—8:00 間の岳—9:15 天狗岩

9:30—12:30 ジャンダルム—14:30 馬の背—14:50—奥穂高岳—15:30 穂高岳山荘泊

縦走の予定時間を考えて3時に出発。今朝はガス晴れて星空も見えていたので、期待通り好天の下を進むことができると思う。独標の上からは岩場が続く、東の空が赤く染まってきて日の出も間近だ。



ピラミッドに向かう。空も明るくなってヘッドランプも消して、皆元気で快調に歩く。ピラミッド、西穂と三角錐の山体が目前に迫る。後ろの奥穂高は雲に隠れているが、前穂や遠くには岳も見えてきた。急な岩場の登り下りがあり、鎖場も出てきて岩稜歩きも本番であるが遅れもなく皆続いている。ピークで後続の人に追い抜かれるが時間的には順調である。西穂高岳が間近にせまっているが大きく下ってまた登山道が何回も続いているのが見える。進むに従い雲も晴れてき



て展望が良くなり、気分よく疲れもあまり感じない。

間の岳もすぎ天狗ノ頭までくると眼前に奥穂高岳の高く大きい岩壁が行く先を遮るように現れるが、ここを登れば大きく目的地に近くなると声を掛け合って登る。畳岩ノ頭、コブ尾根ノ頭を過ぎるとやっとジャンダルムが見えた。手前でジャンダルムを眺めながら休憩して、今回の目的の一つであるジャン越えに進む。登りに少しガレ場はあったが問題なく登る。ジャンのピークで奥穂高へのロバの耳や馬の背のルートを確認して、そこが今回の一番厳しいところであると気を引き締める。ロバの耳のトラバースからコルへの下りの厳しい処も緊張したが全員無事通過できた。最後の難所、馬の背はコルからナイフリッジの登りが続いたが、其の前方には奥穂高岳の頂上があり、大勢の登山者で賑わっていた。

5人で縦走の達成を祝福して、後は穂高岳山荘までゆっくりと下山する。山荘の周りには人と、色とりどりのテントで賑わっていた。登山者が多く、フトン1枚に2人の混雑だった。

12日

6:05 時発—8:30 涸沢ヒュッテ 9:00—10:15 本谷橋 10:25—11:15 横尾 12:00—12:45 徳沢 13:00—13:45 明神—14:20 上高地—新穂高駐車場—22:00 京田辺

白出沢に300mの雪渓が残っており、アイゼン、ピッケルが必要とのことで、下山ルートを涸沢から上高地に変えザイゼングラードを下ったが上りの登山者も多く、渋滞して1時間以上の時間のムダがあり、横尾から上高地はスピードを早めた。

## 感想文

西穂高岳から奥穂高岳の縦走

徳田 幸子

ジャンダルムの上に立ちたいとの思いを叶えるため、4月から金毘羅・Yケンでトレーニング(写真)を始めました。

パソコンでユーチューブを見るとあまりにも険しい岩場、「これは死ぬな」との声が入っており不安になってくる。迷惑をかけるなら・・・断念しようかとも思いました。こんな不安な気持ちを持った私に「登れる！トレーニングをしてきたから一緒に登ろう」と励ましの



声をかけて頂き、その成果でしょうか、西穂高（西穂山荘）から穂高岳山荘迄縦走する事が出来ました。途中で滑落者捜査の為かヘリコプターがホバリングをしているのを見た時はぞっとしました。今までの縦走と違い、厳しい岩場の連続です。緊張のせいか呼吸の乱れもなく、疲れたと感じなかった。ゆっくり、慎重にと言いつつ自分の手と足によく頑張ったとご褒美をあげたい。（岩場登りは好きですが楽しむ余裕はありませんでした。）



山荘に着いたときは「ヤッター \(\wedge\wedge\)」と全員で握手です。そして喜びの祝杯をあげられたことに感謝感謝です。天候にも恵まれて言うことなしでした。奥穂の小屋の前で皆で飲んだ、あのビールの味は一生忘れる事はないでしょう。

奥穂の小屋の前で皆で飲んだ、あのビールの味は一生忘れる事はないでしょう。

リーダー、サブリーダー、二人のメンバーの方には大変お世話になりました。64歳最後の山です、有難うございました。

### 西穂高～奥穂高縦走を終えて

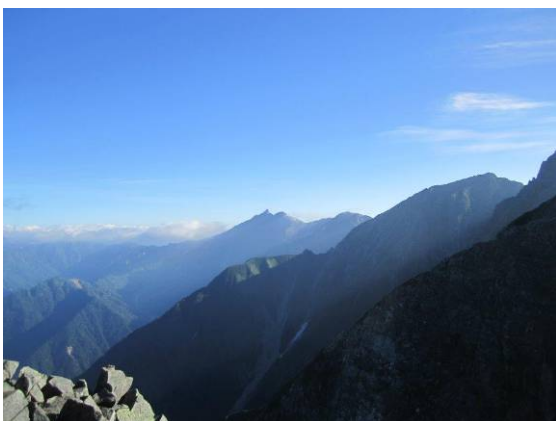
岡本 綾子

まだ山の本当の怖さを知らない無謀な私が、山行計画アンケートに「西穂高～奥穂高縦走」を記載した事で、この夏の最大の目標となりました。

中島 CL の厳しいトレーニング計画が生まれ、金毘羅山の Y 懸尾根は、最終的にロープなしで登り下りが出来るまでになりました。

夏山登山の八ヶ岳縦走を終えると、3日後に慌しく出発です。本番が近づくとつれて本当に行けるだろうかと不安を募らせていました。前日、19時に田辺を出発し、新穂高ロープウェイ乗り場近くの駐車場で、テントを張り仮眠を取りました。翌朝、ロープウェイに乗り、西穂高口駅から西穂山荘まで1時間半程で到着しました。YouTubeで見覚えのある山荘にここまで来てしまったかと覚悟を決めました。週末なので人も多く、とても賑わっています。午後から西穂独標途中の丸山まで足慣らしです。翌日、満天の星がまだ輝いている3時に西穂山荘を出発しました。まずは、第一通過点西穂独標を目指します。暗い中、ヘッドランプの灯りを頼りにガレ場を歩きます。丸山を越え、1時間半程で西穂独標に到着しました。まだ辺りは薄暗く、日の出前の幽かな明かりに山のシルエットが映し出されます。次はピラミッドピークから西穂高岳山頂に向かいます。

まだまだ長い道のりです。6時頃、西穂高岳に到着しました。もうすっかり明るくなり、雄大な山々が美しく存在を主張し、心を癒します。この景色を見たかったんだ！東の間の優雅な時間を楽しみます。これからが厳しい山の本番です。西穂高岳からの急峻な下りを経て、次は浮石が多く、落石に注意と言われていた間ノ岳です。浮石を押さえるように丁寧に歩きます。落石で人に怪我だけはさせないようにと心がけました。すべりやすい逆層スラブを登り、天狗ノ頭を越え、天狗のコルで中間地点です。緊張の続く急峻な登り下り、トラバースを繰り返し、畳岩尾根の頭、コブ尾根ノ頭を経て、中々



見えなかったジャンダルムがその姿を現しました。「これがジャンダルムか」特殊な形をした山にここまで来たねとしみじみ。浮石に気を付けて、頂上にはすぐに到着です。同じルートを下山し、奥徳高岳に向かいます。見上げるとまた激しい登りが目前に現れます。ロバの耳と言われる難所です。一



歩一歩丁寧に登り、三点確保で確実に下ります。次にこのルート最大の難所の馬の背が待ち構えます。やせた稜線は、予想通りの細さです。高度感は抜群ですが、怖がらず確実に登って行きます。馬の背クリア！長い緊張感から解き放たれた瞬間です。奥徳高岳まであと少し。最後の登りがきつい。長時間のアップダウンに緊張の連続だったので体はバテ気味。15 時前、奥徳高岳山頂に到着しました。西穂山荘を出発して 12 時間、大変良く頑張りました。私も自分で自分を褒めてあげたいと思います。難関と言われる西穂高から奥徳高縦走を達成した事で、多くの事を学び、自信もつきました。

最後に、まだ経験の浅い私をパーティの一員として、トレーニングから本番まで導いて頂きました中島 CL、佐坂 SL、丸山さん、徳田さんに感謝致します。貴重な経験をありがとうございました。

## 2 度目の縦走

佐坂 茂美

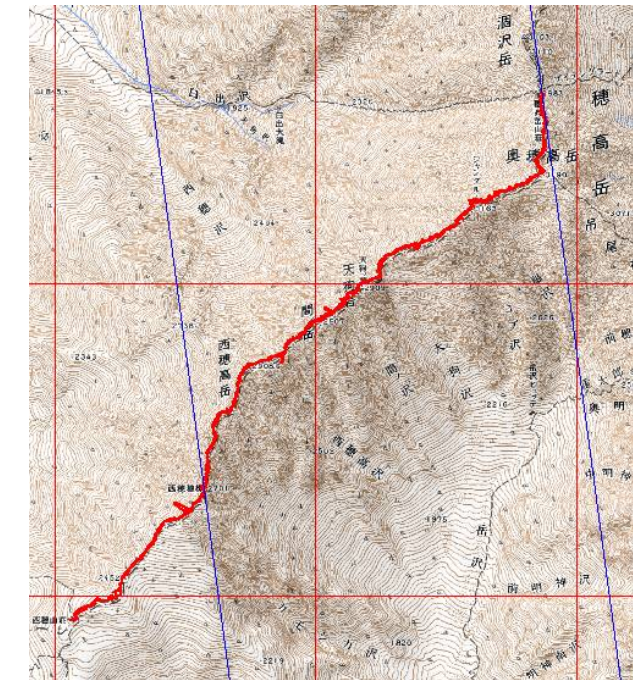
昨年の 7 月 28 日、「初級登山学校」の終了山行でこのルート歩いた。あの時の心境は事前に YouTube で動画を見れば見るほど「なんで終了山行にこんなルートを選ぶのだろう？」と不安ばかりが募りました。 というのもこのルートは日本でも最難関のルートの一つとして紹介してあり、峻険な岩稜の連続、ナイフリッジ、浮石、逆層スラブ、等々これまでの山行では体験したことのないルートだからでした。 手許、足元のみ注意を払いどうにか奥穂山荘小屋に着いたときは大安堵感で一杯でした。「そのルートを歩いてみたい」という希望者が出て私には到底無理な事ですので中島さんに相談した処、快諾を得て「個人山行」実施を決定しました。 2 度目でもあり、又 4 月から月 2 回のトレーニングの成果か、今回の山行では周囲を見渡す余裕もあり 大した恐怖感もなく歩き切れました。 槍ヶ岳、笠ヶ岳を遠望し、眼下には上高地を捉えながらの岩峰歩行は楽しいものでした。 昨年は間ノ岳で仲間が落石をお越し跳ね落ちる石の怖さを体験し、脚の置き場に苦労した記憶がありましたが、2 度目となると気持ちの余裕も出来たのか、然程の困難さも感じずに歩くことが出来ました。 高度感を感じる峻険な岩稜でも“恐怖心”を抱くことなく淡々と歩けたのは生来の“高所恐怖症”から解放されつつあるのかもしれませんが。 とは言え、奥穂山荘に到着した時はさすがに緊張感から解放され安堵しました。 小屋前での仲間との握手は一つの仕事を皆で協力して成し遂げ、互いが互いに感謝、賞賛する気持ちの現れかも知れません。 唯、穂高は山ではなく岩塊だという印象を今回初めて持ちました。 4 ヶ月に亘るトレーニングをやって頂き、皆で安全に踏破させて頂いた中島さんに大感謝です。有難うございました。 ヒヤリハット ありません。



## 西穂高岳－奥穂高岳縦走

丸山 敏文

暗闇の西穂山荘の前でヘルメットにヘッドランプを点灯し集合。念願の難コースを歩くのだと思うと気持ちが引き締まる。山小屋は苦手で熟睡できず横になっただけなので体力が心配。独標まではLEDのヘッドランプを頼りに足元だけを見ながら歩く。独標からの最初の岩場の下りでは、まだ身体に余分な力が入りほぐれていない。リラックスし、細い岩尾根を慎重に登りピラミッドピーク到着の頃に周囲が明るくなる。穏やかな天候で焼



岳に朝日で赤く染まる。遠く乗鞍、笠ヶ岳が望め最高の天気。西穂高岳まで爽やかな風に送られ、朝の涼しいうちに到着。ここから間ノ岳、天狗の頭の岩場のup、downが続き三点確保を確実に行ってないと滑落の危険。飛驒側を降下中、後方にいた他パーティからラクの声と同時に恐ろしいスピードで岩石群が落下していった。緊張していて行動中の写真が撮れなくてごめんなさい。ジャンダルムの横顔は坊主頭で奥穂高から望む厳しい姿の岩稜と異なり愛嬌がある。体力がかなり消耗しているのを察知されてか、ザックは分岐に置いて良いとCLの中島さんからの優しい言葉に甘え空身で登る。出発から9時間30分、長年登れないと諦めていたジャンダルムの山頂に到達。中島さん、佐坂さん、徳田さん、岡本さん、一緒に登ることができてうれしく思っています。特にCLの中島さん、SLの佐坂さんには3月末から7月末までの長い期間のトレーニングを実施していただいた事により事故なく奥穂高まで縦走する事が出来たと感謝しています。有り難うございました。



※左図は岡本さんから送ってもらったスマホのGPS軌跡と、私のeTrex Venture HCの軌跡をカシミール3Dで同時に表示しました。稜線なので衛星からの受信電波が強く軌跡はほとんど同じでした。(西穂山荘～穂高岳山荘間)